



2年連続で全国の舞台に立つ八学大男子チーム＝八学大体育館



2年ぶりのインカレ出場を決めた八学大女子チーム

全日本大学バスケット

八学大男女そろって出場

県勢初、上位進出へ闘志

11月20日から都内などで行われる全日本大学バスケットボール選手権（インカレ）に、八学大の男女がそろって出場する。同じ学校で闘志を燃やしている。全国大会への予選を兼ねる東北大学秋季リーグでは、男子が所属する1部

女子のリーグ戦共に6チームがそれぞれ参加。総当たりによる1次リーグの後、上位4チームによる2次リーグを行い、3位までのチームがインカレへの出場権が与えられる。八学大の男子は、1次を3勝2敗の3位で突破。2次では、仙台大に敗れはしたが、2位の富士大から白星を挙げるなど、全体2位

で2年連続のインカレ出場を決めた。原動力となったのは主将の芹川颯太。高い攻撃力が持ち味で、今季の得点王、3点シュート王、敢闘賞に輝く活躍を見せた。

女子も、1次は3勝2敗の3位。2次では、リーグ戦で大敗した王者仙台大を相手に果敢に攻め、73-63で見事雪辱を果たすなど底力を発揮。3位に滑り込み、2年ぶりとなる大舞台への切符をつかみ取った。

インカレは男女それぞれ40チームが出場。3チームによる予選リーグを通過した1チームが決勝トーナメントに進み、大学日本一を争う。

八学大の男子は国士舘大、愛媛大と、女子は立命館大、環太平洋大とのリーグ戦に臨む。

芹川は「全国大会は全くの別世界。そこで一つ勝つという重みも感じているが、しっかりと結果を出せるよう準備していきたい」と気合い十分。

女子主将の鎌田一花は「仙台大に勝てたことは大きな自信にもなった。インカレでは守りから速攻につなげ、勝ちにこだわったゲームを見せたい」と意気込んだ。

（小嶋嘉文）